

演題名:

スポーツファーマシストによるアンチ・ドーピングの取り組み

要旨本文:

【目的】近年のスポーツ競技においてはその競技能力の向上とともに、ドーピングについて語られることが多い。意図的に蛋白同化作用のあるステロイドなどの禁止薬物を使用される場合もあるが、国内でのドーピングはおよそ8割が「うっかりドーピング」である。そういった事例をなくすために、競技者や指導者に対して適切な情報提供と啓発活動を実施できる専門家としてスポーツファーマシストが期待されている。

<BR>当薬局は、スポーツ整形を専門に受けるクリニックが近いことから、アマチュアを含む競技者が多く来局する。そのため、より専門性の高いアンチ・ドーピングに関する指導が必要とされている。今回、保険薬局として積極的にドーピングを回避するための取り組みを検討したので報告する。

【方法】一般的にはまだ認知度の低いスポーツファーマシストについてポスター掲示やインターネットでの相談応需体制を構築することで、アンチ・ドーピングについての啓蒙活動を行った。また、店舗にて販売しているすべてのOTC医薬品、サプリメントなどが使用可能であるかを確認し、分かりやすく表示した。<BR>普段の処方せん受付においても、来局時に競技者であることを確認し、より専門的な服薬指導が出来るよう体制を整えた。

【結果】インターネットからの相談はまだ少ないが、店舗にて競技者である事を確認した患者に対しては、通常の服薬指導とともに処方薬・併用薬にドーピングに関して注意が必要なものがないか確認することができた。また、注意すべき薬について具体的に説明することで、競技者のドーピングに対する意識向上に寄与できた。

【結論】調剤薬局のスポーツファーマシストを、競技者にとって身近な相談窓口として利用してもらい、一人でも多くの競技者を「うっかりドーピング」から防ぎ、安心して競技に専念できるように今後も支援していきたい。